

普及活動情勢報告（令和5年9月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

サツマイモドローン防除による省力化を目指して



説明をする普及指導員

8月18日、JA高知県安芸地区芸東集出荷場露地部会は、室戸市吉良川町でドローンを使った薬剤散布の実証試験を初めて行い、サツマイモ生産者8名が参加しました。

農業改良普及課室戸支所は、防除に係る準備と操作を行い、ドローンによる省力効果や薬剤のかかり具合など、手散布との違いを参加者に見てもらいました。

生産者は「人手不足のなか、手散布は日数や労力もかかるので、ドローンがあれば楽だ」と導入に向けて前向きに話していました。

室戸支所は、ドローンによる防除効果の検証や課題を整理し、部会のドローン導入に向けて支援します。

病害虫対策のポイントを再確認！～赤野支部園芸研究会勉強会～



すすかび病対策について説明する普及指導員

8月21日、赤野支部園芸研究会が赤野集出荷場で勉強会を開催し、生産者10人が参加しました。JAはナスの定植後の栽培管理について、農業改良普及課はすすかび病に重点をおいた薬剤防除体系について説明しました。

参加者からは、「今年はこの体系ですすすかび病対策をしてみよう」という声が聞かれました。また、定植後間もなく害虫が発生したという声もあり、参加者同士で各病害虫への対応方法について意見を交わしました。

農業改良普及課は、令和6園芸年度も引き続き関係機関と連携し、栽培技術の向上に向けて支援します。

まずはログインから！～I o Pクラウド「SAWACHI」教室【芸西地区】～



説明を聞きながら操作する参加者

9月5日、JA高知県芸西支所でI o Pクラウド「SAWACHI」教室を開催し、SAWACHI登録者15人が参加しました。

N T Tドコモ社員から、スマートフォン等での登録や設定方法、主な営農支援サービス機能について説明されました。

農業改良普及課は、JA等関係機関と連携して操作の補助や営農サービス機能の活用方法の説明を行いました。

出席者からは、「収穫量をハウス毎に入力してみる」、「これでSAWACHIを利用している友人との話がはずむ」等の前向きな声が出されました。

農業改良普及課は、関係機関とともにSAWACHIを活用したデータ駆動型農業を推進します。

規格外のイチジクを加工品に！
～なはりの郷 イチジクの新たな加工品への挑戦～



加工品の検討に向け、打ち合わせを行う普及指導員

9月8日、(一社)なはりの郷のイチジクの新たな加工品づくりに向け、なはりの郷、地域本部、工業技術センターと連携し、試作に取り組み始めました。

なはりの郷のイチジクは露地栽培のため、規格外品も多く出ることから、農業改良普及課は、ドライイチジクを試作しました。なはりの郷の定例会で試食してもらったところ、「美味しい、いける!」「ドライイチジクを作りたいと思っていた」との声があり、工業技術センターでの試作につながりました。

今後も関係機関と連携しながら、ドライイチジクの商品化に向けた支援をしていきます。

支援体制の充実・強化に向けて ～管内担い手担当者会～



意見交換する普及指導員等

9月13日、農業振興センターは、新規就農者等への支援体制の一層の充実に向け、管内市町村、JA等による担い手担当者会を開催しました。

各市町村、JAが行う取り組みの情報交換や「産地提案型による研修生と指導者のマッチング方法」、「サポートハウスの運用」といった具体事例について意見交換を実施した後、JAによる新規就農者の経営開始時の初期経費削減に関する勉強会を行いました。

農業改良普及課は、今後も情報交換などを行い連携を強化できる場を設けるとともに、効果的な担い手支援を行えるよう取り組んでいきます。

ユズ園地台帳調査を実施しています ～担い手への園地集積のために～



園地調査の様子

農業改良普及課は、担い手への園地集積等を目的に令和4年度からJA高知県柚子部畑山支部および安芸市と連携して、畑山支部のユズの園地調査を実施しています。今年度は9月時点で2地区の調査が完了し、1月末までには、地区の調査を完了する予定です。

調査に参加した農家から、山間の園地は運搬車が入れず、ユズをかついで運んでいる、身体の負担が大きいとの声があり、園地整備の重要度は高まっていることがわかりました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携しながら調査を実施し、園地台帳を作成します。